



# 浜家連ニュース

第174号

平成27(2015)年2月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

## 巻頭言 NPO 法人浜家連5周年を迎えて

「これから5年間、私たち浜家連が目指す目標を一諸に考えてみましょう！」

副理事長 鷹野 薫

私たち浜家連は平成22年(2010年)2月22日にNPO法人の設立登記をしましたので、今年の2月で5周年を迎えます。

そこで、この5年間を振り返り、これからの5年間私たちが目指す目標を一諸に考えて見たいと思います。

**I、先ず、この5年間精神障害者を取り巻く環境は、平成26年1月20日の障害者権利条約の批准、同2月19日の発効に向かって大きく変化しました。**

国のレベルで改正されたり、成立した関係法律は、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、障害者優先調達推進法、公職選挙法(成年被後見人の選挙権回復等)、障害者雇用促進法、難病患者医療法の8件にもなります。

市のレベルでは、平成26年3月には全区に生活支援センターが出来、区によって、ばらつきはありますが、そこを基地として、自立生活アシスタント事業、地域移行・地域定着事業も動き出し、法人型の後見的支援制度実施区も増えつつあります。

作業所型の地域活動支援センターは77か所、グループホームは89か所出来ました。すなわち、制度も、施設も整備されつつあります。

現在、市で策定中の平成27年度から平成32年度までをカバーする「第3期横浜市障害者プラン」でも障害者権利条約を土台に、医療環境・体

制の充実も含め、障害・福祉施策が拡充されようとしています。

幸いなことに、浜家連は横浜市の精神保健福祉審議会等の会議に委員として参加の機会を与えられ、施策策定の段階で、意見を述べる事が出来ています。

**II、一方、私たち浜家連もこの間、結構大きなことを成し遂げたとと思います。**

その一は、理事長が3人交代し、着実に世代交代を図ったと云うことです。法人の最大の使命は、継続することで、そのためには円滑な代表者交代が最も大切なことです。その二は、毎年建てた事業計画を、一つも残すことなく、実施して来たことです。如何に多くの事業を実施してきたかは、5回の総会の議案を是非ご覧ください。

この実行力の源は、「もの言えぬ・動けない当事者に代わって私がやらなければ」という会員家族一人一人の「想い」だと考えます。私たちはそれなりにほぼフル回転で頑張ってきたと云っても過言ではありません。

**III、さて、それならこれからの5年間も同じ様に出来るかどうかを考えてみましょう。**

平成23年(2011年)5月に実施した「浜家連生活実態調査」では「60・70歳代の年金生活者の親が、30・40歳代の子供を同居で面倒を見ている」実態がありました。

あれから、4年、更にこれからの5年を加えますと少なくとも9年は経過します。



「70・80歳代の年金生活者の親が、40・50歳代の子供を同居で面倒を見ている」に移行している可能性が高いと推定されます。

すなわち、私たち浜家連にも世間一般と同じ高齢化の波がいやおうなしに押し寄せてきています。意味するところは、当事者も、会員も、役員も皆高齢化して行くということです。

「想い」・「気力」はあっても、残念ながら、「体力」・「知力」はだんだん低下して行くということです。

私たち浜家連は自分達の力量を冷静に見つめ「やるべきこと」の中から、「出来ること」に力を結集して行く時が近づいて来ています。

具体的には、「ある事業は続け、ある事業は止める。ある事業は続け、ある事業は別の事業に置き換える」などを考えることですが、その根本は、私たちが何を中心目標として活動して行くかにかかって来ます。

**Ⅳ、そこで、見えてくるのは、昨年3月の「お困り度緊急アンケート」の結果です。**

**各ステージの割合、「当事者が・・・」**

ステージ	件数	%
1、入院している	37	21
2、家にいる	72	41
3、日中活動している	45	26
4、働いている	22	12
合計	176	100

「当事者が家にいる・・・医療に結びつかない、通院していない、通院しているが医療機関だけで、福祉施設などは利用していない・・・」⇒41%、と云う現状です。

前述のように、「制度も、施設も整備されつつあります」が、どれも「出かければ受けられる支援」であり、「出かけないと受けられない支援」です。

「出かけられない」から困っているのに「来て下さい」と云う。全く矛盾しています。

以上から「家にいる当事者問題をどう解決するか」がこれからの私たち浜家連が目指す中心目標になると考えます。

現在、私たち浜家連は生活支援センターを基地とした、精神障害者に「福祉を届ける」専門チームを設置する「横浜版アウトリーチ事業」の構築を市に要望しています。

ただし、ここで、大きな問題が出て来ます。これからは、「お願いだから誰かやって下さい」と待っているのは、この事業は実現しないかもしれません。

原因は「人がいなくなる」からで、ここで高齢化問題が出て来ます。

福祉の現場の人達が、老人福祉関係に集まっていて、これからますますそちらに行くと考えられるからです。

2025年（私が88歳時）には老人介護職員が250万人必要で、これから11年間で80万人から100万人増やす必要があるとのことです。

精神障害者関係の業務は今後「誰かがやってくれる」のではなく「家族が自分も参加してやる」方向へ向かって行くと思われます。

私たち浜家連は今度5年間の目標を考える時「自分も参加してなんとかする」覚悟をもって臨む必要がありそうです。もちろん、この私の考えは一つの意見であり、問題提起です。会員の皆さんが各々置かれている現状によって目指す目標は違うと思います。

**「もの言えぬ・動けない当事者に代わって私がやらなければ」という会員家族一人一人の「想い」に立ち返り、一緒に考えてみましょう！**



今回は、平成 26 年 11/8 11/22 11/29 12/6 12/20 と、すべて土曜日に「いきいきセンター金沢」で開催しました。

あおぞら会として 2 回目です。今回参加者を男性（お父さん）のみとしました。参加者募集には大変苦勞をしました、募集パンフレットを保健センター・支援センター・社協・家族会など配りましたが、メ切日になっても 3 人でした。その後、青いとり作業所の家族会、浜家連理事会の時個別に声掛けした人と、募集案内を見てとの人を合わせて 8 人の参加者となり担当者として元気が出てきました。（参加者区別内訳 金沢区 2、港南区 1、栄区 2、磯子区 2、南区 1）

全員お父さん方の参加です、1 回目はどうなるか不安を抱えての始まりでした。皆さんそれぞれの息子さんの病症に苦しみ、父親としてどのように接していいかわからず、会話もままならず、このままいつまで続くのか、暴力、引きこもり、強迫神経症による家族の生活のしづらさ、沢山の不安を抱えての参加でした。1 日目は自己紹介をしながら、抱えている課題を発言して頂きました。終わる頃には、硬さもとれ明るく次回参加を約束して帰りました。アドバイザーとして浜家連顧問の米倉さん、金沢区生活支援センターの施設長さんが出席してくれました。ハラハラして見守っていたと感じました。2 回 3 回と会が進み 5 回目の時は、会全体が以前から知り合いだったように和やかに進み、5 回目最後に再び出席の米倉さんからは「言う事なし」のお言葉を、支援センター施設長さんからは、「1 回目と全然雰囲気変わっていた。」とのお話があり、更に金沢区の福祉保健センターのケースワーカーさんからは「新人ワーカーにこんな場所で勉強してもらいたい」「女性担当で良かったと思う、会が和めた」。米倉さんか

らの「言うことなし」の一言で疲れが飛びました。担当者もほっとして、参加された皆さんと名残惜しく終わりました。今回男性だけの学習会でしたのでテキストの目的をしっかりと学習出来た勉強会でした。今年 2 月 7 日（土）に同じ場所で 11 時半より同窓会を約束して解散となりました。

#### 以下参加された皆さんの声です

\*お互いの悩みが分かったので色々気が楽になった、うちの場合は良い方だ、上には上があるものだ。

\*人それぞれ悩みを持っていることが分かった。

\*男性の会合を作ってもらえたことは良かった。

\*とにかく、この関係の病は人（他人）に知られたくないのが本心です。

\*まだまだ聞いてほしいことたくさんある、教えてほしいことも沢山ある。

\*この勉強で、病気の状況がわからず対処に間違っていたことを思い出した。

\*本人が一番苦しんでいることで、今後は家族も割り切って対応していきたい。

\*この病気の特徴として、全員出席者の会話で同じであることを認識した。

\*障害としての症状の確認をしました。

\*親としての気構えが出来た。

\*親・子どもにも目標を持っていないことに気が付いた。

\*大変参考になり力づけられました。有難うございました。

\*私は、多くの友人・先輩がいますが、子供の病気については話したことは有りませんが、今回このように同病の親同志で安心して話が出来た。

\*この会は、他区（バラバラ）からの集まりで話しやすかった。



## 浜家連の動き ～差別のアンケート～について

昨年は巻頭言にあるように障害者に関わる沢山の法律が成立して、法律的にも整備されつつありますが、しかし何が「差別」なのか「合理的配慮の具体的なこと」とは何かははっきりしていません。特に精神障害については、一見しただけでは分かりにくいことがあります。そこで浜家連と

して、家族会の皆さんに「差別を感じたこと、聞いたこと」などの差別について、アンケートを募集しています。提出していただいた結果を以って、横浜市や国に報告して、少しでも私たちが暮らし易くなることを願いたいと思います。下記に合理的な配慮の一つをご紹介します。

### 日本全国の駅員さんに感謝！～日本は素晴らしい国だ～

鈴木本陀理

商社を定年退職して、ある福祉機器製造メーカーとタイアップして階段昇降機を海外に輸出していた。

ヨーロッパでは歴史ある古い建物をそう簡単には壊したり、リニューアルなどはしない。むしろ歴史ある古い階段を大切に使っていた。また個人の家でも階段のある高台の家が多く、同社機器はパテントを持っていただけに飛ぶように売れた。

アメリカの9・11の時にはエレベーターの止まった崩壊寸前のビルの中から障害を持ちながら働く多くの人達を同社製品を使って階段を下り、ビルから脱出に成功し、多くの大切な人命を救った。当時のマスコミが大々的に同社製品の功績を称え報道してくれて、その時の私の大きな喜びは今も忘れることが出来ない。

私は、同社製品の階段昇降機を売り込むために海外にもよく出かけた。私が海外に出て痛感したことは各国民の障害者に対する態度・接し方、思いが日本とは全く違うという事でした。健常者がごく自然に障害者に対応して支援をしており、差別・偏見等全く感じさせないどころか、全くないのです。帰国していつも思っていた事は、「日本はなんと精神的に後進国なんだろう」と私はつい最近まで思っており、日本には正直失望していた。当時の日本の各駅にはまだエレベーターが今の

ように設置されておらず、車いすで電車に乗るには、どうしても階段昇降機が必要であった。

今ではほとんどの駅にエレベーターが設置され階段昇降機などは全く不要となり、車いすに乗って積極的に活動している。

実は私の家内は、統合失調症で、長年服薬・副作用の影響もあり残念ながら最近パーキンソン病を併発して、ついに車いす人間になってしまった。

先日馴れない車いすで不安ながら家内の好きな演奏会に千駄ヶ谷の津田ホールまで行った。長津田から千駄ヶ谷まで乗継駅が沢山あるにも係らず、駅員さんたちの手際良い連携プレー、親切で心地よい支援のお蔭で、スムーズに予定通り会場に到着し演奏会を心ゆくまで堪能でき、感動的だった。どこの駅員さんも嫌な顔一つせず、乗った駅の駅員さんに下車駅を告げると、下車駅には必ずスロープ板を持ってその駅員さんが待っていて下さり、次の乗り換えの改札口までとても親切に案内して下さるので

す。日本はなんと素晴らしい国なんだろう！日本に生まれて本当に良かった。と改めて思い感激を体感した次第です。次の私の大きな夢は家内と車いすでのんびりと海外旅行を楽しむことです。



## 浜家連新年会が開催されました。平成27年が始動しました。

平成27年1月9日(金)12時30分から3時まで、横浜ラポールボックスにて理事会終了後浜家連新年会がありました。理事さんが、ほとんど出席されました。来賓として、石井参与、沖柳参与、小山社労士、菊地監査役、ゲストとして江田記念病院さんから4名の方のバンドをご招待して演奏を披露してもらいました。演奏曲目は、「君といつまでも」、「勝手にしやがれ」、「おふくろさん」リクエストで「みちのく一人旅」、全員合唱で、「若者たち」、アンコールで「ふるさと」

を歌いました。

ボーカルの歌に合わせて踊りだす人もいて、いつも会議ばかりの堅苦しさととは全然違った雰囲気、多いに盛り上がりました。演奏の後は、各理事さんから今年の抱負を語っていただいて、締めは鷹野副理事長の発声で、皆さんの息が合った見事な1本締めでお開きとなりました。この調子でこれからも皆さんと一緒に事業に邁進できそうです。

(司会 すずらん会 ホダリ記)



米倉顧問による乾杯で開始



バンドの熱演



ボーカルに合わせて踊る理事さん

**\*事務局追記** 写真担当の田野井さんが、沢山写真を撮ってくださいました。写真CDにして各単会さんへお配りしますので、理事さんから受け取られて、必要な場面は焼き増ししてお納めください

### 江田記念病院さんの医療相談室 本白水氏よりお礼状が届きました。

理事長の宮川様にもご挨拶させて頂きましたが、このような機会を作っていただきありがとうございました。

IMS グループや江田記念病院を知っていただく機会を与えて頂いたこと、また、お声をかけていただいたことで、歴史の浅い江田記念病院の中に浜家連のことを改めて知ってもらう機会にもなったこと、何より参加されていた浜家連の皆様と歌ったり笑っていただいたりする時間を一緒に過ごさせて頂いたこと、ひとりひとり何か感じられたことがあったなら参加させて頂いた甲斐があったと思います。

皆さまは多くの苦勞を背負いながらもここまで懸命に過ごされてきた尊敬する人生の大先輩です。ご家族の立場でコツコツと積み重ねながら活動されて

こられたと思います。

私たちは医療従事者という立場で、利用する方々にご迷惑をおかけすることもありながらも、また様々なルールや制約に苦しみながらも努力しているところです。

当事者、ご家族の皆様、医療従事者、関わっていただけの様々な立場の方々、みんな希望に向かって歩き続ける「若者たち」と思い、一緒に歌う曲を選曲しました。私が幼少期に父親が持っていたレコードを聴いた時から好きな曲でした。

皆さまと笑顔になって過ごせる時間を共有できて良かったと思います。今後ともよろしく願いいたします。

## あじさいの会便り(平成26年12月号より抜粋)

～お母さん・お父さん私の事決めつけないで～

長い年月、わが子と一緒に過ごしたら『うちの子はこういう子だ』というように決めつけていませんか。親の見方がある特定のフィルターを通してしまう傾向があります。ある例では、折角息子さんが仕事見つけてきましたが、両親は褒めてくれませんでした。息子は仕事場でも不当な扱いをされて2ヶ月余りで辞めました。すると父親は「仕事はそういうものだ」と、言われた息子は一気

## 高森先生 SST から

にキレて大暴れでした。

父親の言葉は常識的には普通でしょうが、親はつい助言をしてしまいます。親はどうしても常識的にわが子を当てはめようとしてしまいがちです。切羽詰ると助言・忠告が出てしまいます。そこで、もし助言が出てしまったら、「ごめんね～お母さん(お父さん)また助言してしまった～」とスマートに謝ることをお勧めします。

### イベントのお知らせ

保土ケ谷区家族教室「仲間がいれば、もっとよくなる心の病」

講師 野末 浩之先生(うしおだ診療所 副所長)

日時 平成27年3月8日(日) 午後2時～4時

会場 かるがも2階 多目的ホール(相鉄線星川駅より徒歩2分) 定員 40名 入場 無料

受付開始 2月2日(月)より

問い合わせ先 主催 保土ケ谷区福祉保健センター 045 - 334 - 6383

保土ケ谷区生活支援センター 045 - 333 - 6111

共催 保土ケ谷区家族会たちばな会

### 編集後記

今まで事務局の勤務している人の紹介がないまま、みなさんと接してきましたが、更に良く知ってもらう為に紙面をお借りして、コメントを書きましたので、ご承知いただいてフォーラム等で会いましたら、よろしくお願ひします。

**斉藤 昌博(事務局長)** \*寒い中でも梅の蕾がピンクになっています。春を探しに出掛けませんか？

出身は長野県上田市です。(合併する前は丸子町、鹿教湯温泉の入り口にある小さな町でした。)

退職する前は、全く別の世界で働いていました。今の職場に勤めだして8年目です。その間様々なことを

**中居 武司(事務局次長)**

定年退職後、斉藤さんに声をかけていただいて浜家連にお世話になる事になりました。

月日の立つのは早いもので、もう4年目を迎えています。この間、活動を通じてあるいは皆さんのお話を伺いながら、精神障害に対する見方や思いがより深く

**小野寺 純子(会計担当)**

早いもので会計担当として週2日勤務で浜家連に入職して10年目を迎えます。藤沢周平の小説に登場する海坂藩の山形県鶴岡市の出身です。鶴見から新横浜に移る際はどのように迷いましたが、何とか続けることが出来ました。浜家連では精神障害者のいろいろなことを知りとても勉強になりました。当事者

見たり聞いたり勉強して、自分なりに成長できたかな思っています。

皆様のお役に立てるようにこれからも誠心誠意頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

なったような気がします。

どれだけ皆様のお役に立てているか、クエッションマークはいろいろ残るかも知れませんが、これからも一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。

からの電話で戸惑ったりしましたが…、本年もよろしくお願ひします。

